

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「克己」のもと、己に打ち勝つ強い意志を持ち、自分の未来を自分の力で創造しようとする心を持った、他者との関わりの中で、次世代の社会に貢献できる人材を育成します。 今後の社会で必要な力として挙げられているジェネリック・スキル（汎用的能力）の中で、特に金岡高校で身に着けてもらいたい6つの力を「愛し愛され・金岡力」を基に定義しました。 「愛し愛され」には「自己と他者と、よりよい関係を築く力」の意義があり、①コミュニケーション能力 ②自他の理解能力 ③他への働きかけ力 また「金岡力」には、「知識を活用して問題を解決する力」の意義があり、④自己管理力（克己心） ⑤知的能力 ⑥問題解決力 これら合計6つの力を伸ばし、それによりキャリアプランニング能力が向上し、自らの将来について、選択・設計・行動・実現に向けて進みだすことができる生徒の育成を目標としています。

2 中期的目標

1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現 （1）全教職員が授業改善に取り組み、授業力を磨くとともに、生徒の主体的・能動的に学ぶ姿勢を引き出すことでジェネリック・スキル（汎用的能力）を育成し、進路実現をサポートする。 ア 総合的な探究の時間を用い、新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、21世紀型スキルであるジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。 イ 新たに情報部を新設し、教員内に定着してきた ICT 活用を、情報部を中心として ICT の有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。 ウ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。 ※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いにフィードバックを行うことで授業力の向上を図る。 各自、自身の教科以外の授業見学も含めて、年2回以上の授業見学を実施 令和8年度まで継続する。 ※授業アンケート評価全項目の平均値 3.40 を維持する。（R3=3.41, R4=3.42, R5=3.46） ※学力生活実態調査の学力指標 GTZ（R3.9月：Sゾーン=0.2%, Aゾーン=3.4%, Bゾーン=44.8%, Cゾーン=40.9%, Dゾーン=10.7% R4.9月：Aゾーン1.6%, Bゾーン35.6%, Cゾーン46.4%, Dゾーン16.4% R5.9月：Aゾーン=0.2%, Bゾーン=26.2%, Cゾーン=56.4%, Dゾーン=17.2%）を、令和8年度には国公立難関大学を狙えるAゾーンを3%に、中堅校を狙えるBゾーンを40%に。Dゾーンを10%以下にする。 ※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校、私立中堅校の合格者（R3=8人, 151人、R4=12人, 164人, R5=5人, 156人）を、令和8年度に各20人超、150人超とする。 （2）「他への働きかけ力」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。 ア 図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 ※図書館の生徒貸出数（R3=668冊, R4=470冊, R5=693冊）を令和8年度まで500冊を維持する。 ※高校生ビブリオバトル大阪大会（R3 6大会連続出場 R4出場せず R5出場 決勝進出・入賞）において、令和8年度まで府大会出場を維持し、上位をめざす。 イ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナル・リテラシー）やメディアリテラシーの育成 ※教員向け各種研修を実施し（毎年3回以上）、また生徒向けにも実施する。 （3）修学旅行の充実 ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。 ※令和8年度まで、実施後のアンケートの満足度が肯定的評価85%以上（R4=96.5%, R5=95.1%）を維持する。 （4）国際感覚を身につける。 ア オーストラリア語学研修など語学研修の実施をめざす。また、英語を活用する機会を増やす。 ※英語に興味関心のある生徒を支援する。語学研修が実施できない場合には代替の取組みを考え、英語の発表機会を設けるなど充実をめざす。	
2 安全安心な学校づくり （1）安全安心な学園環境を整える ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。 ※前年度より減少させることを目標とする。（R3=42件, R4=68件, R5=52件） （2）人権教育の充実 ア HRや総合的な探究の時間を活用し、他者を思いやる人権意識の向上を図る。 ※学校教育自己診断（生徒）「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」（R3=87.1%, R4=89.5%, R5=91.7%）を令和8年度まで80%を維持する。 （3）教育相談体制、サポートの充実 ア SC（スクールカウンセラー）とSSW（スクール・ソーシャルワーカー）を活用して支援体制をサポートする。 イ 支援が必要な生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。 ※SCの相談回数を増やすとともに、本校独自にSSWを招聘し、定期的にSCやSSWのケース会議を開催 令和8年度までSCやSSWの参加しているケース会議を年10回実施し、継続する。（R4 11回, R5 19回(1/26時点)） （4）地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化 ア 地域に支持される学校をめざす。 吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ほか各クラブや、芸術科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒にさまざまな活躍できる場を提供する。 イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR活動、委員会活動、部活動をサポートする。 ※令和8年度まで、学校教育自己診断（生徒）「学校行事等が自主的に運営されている」（R3=77.8%, R4=80.2%, R5=89.2%,）肯定値80%を維持、「部活動は活発である」（R3=89.8%, R4=89.7%, R5=92.2%）肯定値85%を維持する。 ウ 学校説明会を充実させる。 ※令和8年度に実施後のアンケートの最上位評価80%を維持する。（R3=76.5%, R4=81.3%, R5 81.7%）	
3 教職員の働き方改革 （1）時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務80時間超の延べ人数を削減する。※前年度より減少させる。（R3=51人, R4=28人, R5=18人(12月末時点)） イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
※今年度、アンケート項目の整理し回答しやすくした。また、実施時期も早めた結果、本校の現状と課題が分かり次年度への取り組むべき教育内容へつなげる。 （１）生徒回答結果【項目】 【全般】平均肯定回答率：75.8％ ・学校に行くのが楽しい:87.3％ ・この学校には、他の学校にない特色がある:60.8% ・先生は生徒の意見をよく聞いてくれる:79.6％ <分析> 教育課程を含め、総合的な探究の時間や学校教育活動全般の改編が求められている。 【授業】平均肯定回答率：75.4％ ・授業はわかりやすく興味を持たせてくれる:71.8％ ・授業で自分の意見をまとめたり、発表する機会がある:72.9％ ・教え方に工夫があり、独自の教材やPC等情報機器を活用し、画像や動画でわかりやすく説明してくれる：80.3％ ・授業中や課題のために生徒1人1台端末を効果的に活用している：67.1％ ・学習の努力を認めてくれていて、評価も納得できる：85.1％ <分析> 「分かる授業」に向けた授業改善が早急の課題である。また、教員側のICT機器活用は進んでいるが生徒端末の有効活用等の普及に向けた取り組みを進める。 【進路指導】平均肯定回答率：90.4％ ・コースや選択科目は自分の進路に合っている：89.4％ ・進路に関する情報は十分に提供されている：92.0％ ・卒業後の進路について、十分に考える時間や説明がなされた指導を行っている：89.8％ <分析> 多岐にわたる進路先に対応できる「キャリアサポート」を1年次から卒業後まで見据えた進路指導を総合的な探究の時間と連携しながらに刷新する。 【生活指導】平均肯定回答率：88.3％ ・生徒は生活規律(遅刻等)や学習規律(授業態度等)などの基本的習慣の指導を守っている：90.3％ ・生徒は交通マナーを守っている：86.4％ <分析> 生徒の生活規律・マナー意識向上の徹底を継続する。 【生徒会】平均肯定回答率：77.9％ ・生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されている：86.6％ ・部活動は活発で、積極的に参加している：77.9％ <分析> 生徒の自主性を更に活性化させることで、部活動へも波及できるよう指導する。 【いじめ対応】平均肯定回答率：93.1％ ・学校はいじめについて困っていることがあれば対応してくれる。（あるいは、いじめはないと思う）：93.1％ 【人権教育等】平均肯定回答率：89.8％ ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある：86.0％ ・学校は個人情報を守ってくれて安心できる：93.5％ <分析> いじめ根絶を含め人権意識の向上とお互いに尊敬し合う関係性を授業内でも認識しあえる涵養的な人権教育を学校全体の取り組みとして推進する。 【教育相談】 ・担任の先生以外にも相談できる先生がいる：82.1％ <分析> 学年が上がるにつれて、肯定率が上昇している。入学時から学級活動等においての仲間づくりとともに、生徒の立場になって考える教員との関係性の向上をめざす。 <その他項目> ・施設整備・地域・探究・国際交流については、校内組織の改編の伴い今後も活動内容の改善を含め「めざす学校像」の指標となる活動をしてゆく。 （２）保護者回答結果【項目】 【いじめ対応】平均肯定回答率：82.6％ ・学校は、いじめについて困っていることがあれば対応してくれる。（あるいは、いじめはないと思う）：82.6％ 【人権教育等】平均肯定回答率：86.7％ ・学校は命を大切に作る心や社会ルールを守る態度を育てようとしている：81.4％ ・学校は子どもの個人情報を守ってくれて安心できる：92.0％ <分析> 保護者との連携強化を更に推進し、地域から愛される学校をめざす。 【その他の項目】 ・全般授業	第1回（7月3日） ○地域連携等について ・地域連携を進めて、それをSNS等でうまく発信すれば効果的では。 ・様々なセキュリティ上のリスクも考えなければならないが、可能な範囲で開かれた学校づくりを進めてもらいたい。 ・登下校時は特に近隣の中学校と登校時間が重なるため、自転車の交通マナーの徹底をさらに推進していただきたい。 ○広報活動について ・地元の高校生向けの情報発信にさらに力を入れてもらいたい。 ・生徒たちの話を聞いていると、中学校の先輩からの情報で学校のイメージをつかんでいる様子がうかがえる。生徒を使った情報発信も増やせば良いのではないか。 ・他の高校との比較のためにもホームページの更新頻度をさらに上げた方が良い。 ○学校組織について ・将来構想について先生がただ考えるプロジェクトチームなどは学校を活性化させるのに良いだろう。動けるところから動いてもらえれば良いのでは。 第2回（11月21日） ○授業見学について ・授業見学・施設見学をさせてもらって良い機会だった。 ・自分たちの時代とは全く違う授業で新鮮だった。プロジェクターを活用し、生徒が授業に積極的に参加している形だった。 ・芸術では自分たちも参加させてもらったが、各自が発信できる楽しい授業だった。 ○新たな取り組みについて ・新しい視点での資料がたくさん出てきて、それぞれ情報密度が高く、資料の準備等がたいへんだったと思うが、新たな取り組みについてよくわかり、参考になった。 ○採択教科書について ・教科書も以前のもとは様変わりしている。図も多く、情報量が多い。QRコードで別資料や動画に飛ぶものまであり、教育も大変な時代になっていると感じた。 ○新しい自習室(ちょこっとスタディ)について ・生徒の動線を考えて新設したのは良かった。部屋の内外に学習意欲を高める自作動画を流したり、情報提供したり、計画的・自発的に利用できる自習教材を並べたりしているのは良い取り組みだ。相当数の利用者が定着しているようで良いと思うが、今後もさらに利用者の拡大を図っていただきたい。 ○地域連携等について ・軽音楽部が地域の福祉施設で演奏会を開き、部員たちは貢献できた実感を持っていた様子とのこと。良い経験になったことだろう。このような取り組みを進め、広報にも活用すれば良いと思う。 ・自転車通学について指導していただき、左側通行等はかなり定着してきている。日が短くなってくる時期なので、早期灯火についても指導していただければさらに安全であろう。 第3回（2月19日実施） ○令和6年度「学校評価」について（校長から説明） ・学校教育自己診断アンケートの質問項目を大幅に改訂した。肯定値を上げることよりも、現在の学校教育の課題を洗い出すことを前提としている。新しくなった大学進学の状態に合わせるべく、教育課程や校内組織(分掌等)等、様々な面で再編を進めている。 (委員からの意見) ・総じて肯定値が増えており、良くなっているように感じた。学校が全体としてイメージ的に明るくなったと思う。 ・交通安全について、自転車登校が多いが事故等についてはどうか。 ○令和7年度「学校経営計画」策定に向けて（校長から説明） ・めざす学校像を【学校像】と【育てる生徒像】に分け、明確な学校経営方針とした。 ・中期的目標の基本方針として、新学習指導要領改定後、3年を経て「探求的な学び」を深める授業改革を中心に「わかる授業」「確かな学力」の定着、「ワンランク上の進路実現」をめざす。 ・校内組織の大幅な改革とともに「人権意識の更なる向上」を教職員に求め、生徒支援体制をより一層丁寧に進めていく。 ・総合的な探究の時間を効果的に活用するための学校全体の体制を整えた。国際交流活動や図書館活性化にも尽力する。 ・地域に愛され、信頼される学校改革のため、生活指導の改善や地域交流を積極的に実践する。 ・令和8年度入学生からの新制服導入に向けても着手する。 ・教職員の働き方改革にも持続的で効果的な方策を検討する。 (委員からの意見) ・1学期中間考査をなくして、授業に集中できるようになる取り組みは良いと思う。昨年度のものに比べてすっきりしており、目標もわかりやすい。 ・今後ますます魅力的な学校づくりをしていかないと厳しい。試行錯誤しながらやっている現状が伝わってきてうれしい。 ・これからの教育は、先生が生徒に教えるというスタイルではなく、生徒自身が自分で考えていくというように変わっているのをテレビ等で見た。今回の変更、具体的には中間考査がなくなったり、生徒が参加する授業という言葉

府立金岡高等学校

3)教職員回答結果【項目】 【学校運営】平均肯定回答率：65.1% <分析> 教職員間が情報共有・意思疎通できる場面の設定を増やすとともに、チーム学校として現在の課題を解決しながら将来の課題を見据えた教員集団を育成する。 【授業】平均肯定回答率：77.5% <分析> 教え方の工夫や授業や評価については高い意識を持っているが、生徒端末の活用が思うように進んでいない。学習ツールとしての活用の研究が今後の課題である。 【その他項目】 ・進路・生活指導・生徒会については、来年度の分掌再編・業務内容の更新を受け、各分掌が果たす役割を明確化させることで向上を図る。 ・人権・いじめ・教育相談についても同様に、学校全体の課題としてとらえる地盤を構築させ、問題発生時の迅速な対応を学校全体で取り組めるようにする。 ・施設設備・ハラスメント・渉外及び国際交流についても学校全体の意識を高めるとともに、教職員全員の意識向上に努める。	などがとても良いなと感じた。 ・金岡は、卒業後も友人関係が続いているので、金岡でのつながりを通じて成長していければ良いと思う。 ・「地域に根差した」愛される学校ということで、地域の教育力を伸ばしていくんだという目標、地域を支えていくような学校となることを目標にしているので良いと思う。 ○令和6年度卒業生進路について(経過報告) (進路指導部から説明) ・まだ最後に追い込みをかけている生徒がいる状況で、結果報告を受けての集計も途中である状況での経過報告 ○「ちょこスタ」報告 (首席から報告) ・今年度、生徒の動線を考えて会議室を自習室とした「ちょこスタ」の利用状況の報告 ○分掌からの報告、学年からの近況報告 ○その他 (委員からの質問) ・今年度再開したオーストラリア語学研修は、金岡高校だけで企画したのか。 (校長から回答) ・次年度は金岡単独で企画する。希望者全員が参加可能な体制を作り、費用も少し抑えられる予定。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現	(1) 授業改善し、基礎学力の定着・進路実現を支援 ア 授業アンケートおよび ICT 活用による授業改善を推進 イ 生徒のデータによる状況把握と学習支援プランの作成と実践	(1) ア・総合的な探究の時間を通じ、金岡高校で身につけてもらいたい6つの力「コミュニケーション能力」「自他の理解能力」「他への働きかけ力」「自己管理能力(克己心)」「知的能力」「問題解決力」の向上を図る。 ・全教員が他の授業を観察、助言しあい、授業見学シートを用いて成果検証を行い、教科会議等を通して改善点について全教員で情報を共有する(9～1月)。 ・教員が他校や教育産業の研究授業や研修等に積極的に参加し、自身の授業改善はもとより教科でも情報共有を行うことにより教科授業力の向上につなげる。 ・第1回の授業アンケート(7月)で個人のシートを用い各教員が課題を把握し、教科会議で教科シートの検討し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ 進路指導部主導で学力指標 GTZ の分析をし、また、教科データにより各教科の弱点を各教科で把握する。進路指導部が成績を分析し、学年と連携をして3年間を見通した進路指導を行い、進路実現をサポートしていく。	(1) ア・探究の時間についての振り返りアンケートを実施し、6つの力について、身についたとする肯定回答 80%以上をめざす。 [コミュニケーション力 98.4%、人の意見を聞く力 97.4%、発表する力 95.6%、他の力新規] ・学校教育自己診断 ICT 関連項目(生徒)の肯定値 90%以上維持をめざす。「先生は授業などでコンピュータやプロジェクター等の情報機器を活用している。[96.4%] ・校内授業相互見学を各自2回実施する。 ・進学に関わる教科を中心に計15回の研究授業や研修等への参加を行う。[16回] ・授業アンケート(12月)全項目の平均3.4を維持する。[3.46] イ・教育産業の学力指標 GTZ について 国公立難関大学を狙えるAゾーンは2.5% 中堅校を狙えるBゾーン以上は45%以上をめざす。また、Dゾーンは10%以下を維持する。 [9月: Sゾーン=0%, Aゾーン=0.2%, Bゾーン=26.2%, Cゾーン=56.4%, Dゾーン=17.2%] ・難関校の合格者12人以上とする。[7人] ・私立中堅校の合格者を120人以上とする。[156人] ・現役大学進学率52%をめざす[68.4%] ・進学実績が向上している学校視察を年間2回実施する。[2回]	(1) ア・探究最後の時間(2月)アンケート実施(○) コミュニケーション力 94.9% 意見を聞く力 96.7% 発表する力 96.5% ・ICT項目(生徒)「教え方に工夫があり独自の教材やPC等情報機器を活用し、画像や動画でわかりやすく説明してくれている」80.3%(16.1ポイント減)(△) ・授業見学回数3.36回(12月)(○) ・研究授業・研修参加回数17回(○) ・授業アンケート(12月)全項目平均3.40(○) イ・(Sゾーン=0%昨年同値) Aゾーン=0.8%(0.6ポイント増)(△) Bゾーン=28.1%(1.9ポイント増)(△) (Cゾーン=50.6%(5.8ポイント減)) Dゾーン=20.4%(3.2ポイント増)(△) ・難関大合格者2名(1月) ・私立中堅校合格者120名(1月)(○) ・現役大学進学率65.3%(1月)(△)・学校視察1回(5月)(△)
	(2) 「他への働きかけ力」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。	(2) ア 探究の授業での図書館の活用を促進し、図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 イ ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施	(2) ア・図書室生徒貸出数、500冊を目標とする。 [693冊] ・校内大会を年2回実施、代表者が高校生ビブリオバトル大阪大会に出場する[校内大会2回実施 府大会出場 決勝進出・入賞] イ 教員向け研修、年3回以上実施[4回]	(2) ア・図書室生徒貸出数297冊(57.1ポイント減)(△) ・ビブリオバトル府大会(12月)に1名出場・準優勝(○)
	(3) 修学旅行の充実	(3) ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。	(3) ア 修学旅行アンケートの満足度が肯定的評価85%以上を維持する。 [95.1%]	(3) イ・教員向け研修3回実施(人権(11月)・SSW(8月)・授業改善(12月))(○) (3) ア・修学旅行アンケート満足度肯定回答率99.4%(4.3ポイント増)(◎)
	(4) 国際感覚を身につける。	(4) ア オーストラリア語学研修など語学研修の実施および英語での発表機会をつくる。それに向けて事前学習などを実施し、内容の充実を図る。	(4) ア 語学研修の実施および英語での発表機会をつくる。[海外・国内語学研修企画後、実施はできず。3年英語KPで英語によるプレゼン発表]	(4) ア・英語での発表機会 1年イングリッシュコミュニケーション(5回)、3年英語KP(6回)、3年ユニバーサルイングリッシュ(7回)(○)

府立金岡高等学校

2 安全安心な学校づくりと環境整備	(1) 安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安全安心の確保 (2) 人権意識の向上 (3) 教育相談体制、サポートの充実 ア SCとSSWのケース会議で教育相談支援 (4) 地域に支持される学校 ア 生徒が主役の学校づくり イ 学校説明会の充実	(1) ア 警察と連携し、交通安全指導を実施。1年生の通学指導を強化し、通学路での事故を無くす。 (2) ア HRや総合的な探究の時間を活用し、人権・HR・SNSの利用法研修等を実施することにより、他者を思いやる人権意識の向上を図る。 (3) ア SCとSSWのケース会議を年10回開催して学級運営や学習支援をバックアップする。また中学校とも連携する。 また1 (2)とも関連させて、SCおよびSSWによる教員の傾聴力向上のための研修も実施する。 (4) ア 「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 イ 学校説明会の内容の充実を図る。	(1) ア 自転車通学の事故ゼロをめざす。 警察との連携による登校指導などの実施や探究の時間を活用し、交通安全を考えることを通して事故総数を R5より減少させる。[52 件] (2) ア 学校教育自己診断(生徒)「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」 肯定値 80%維持をめざす。[91.7%] (3) ア・SCとSSWのケース会議を年10回以上開催[29 回] ・SCおよびSSWによる研修の実施 [1 回] (4) ア 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、自主的に運営されている。」生徒の肯定的回答 80%以上にする。[89.2%] イ 来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の最上位肯定値 80%以上を維持する。[81.7%]	(1) ア・登校時事故総数 40 件 (23.1ポイント減)(○) (2)ア・「自分と違う意見を尊重することができる」 (生活面や学習面の調査 11 月)肯定回答値 95.3%(3.6ポイント増)(◎) (3) ア・SC ケース会議 12 回、SSW ケース会議 18 回、計 30 回 (1 月)(○) ・SSW 研修(8 月)1 回実施 (△) (4) ア・「自主的に運営」肯定回答値 86.6%(2.6ポイント減)(○) イ・学校説明会(2 回平均)肯定回答値 87.5%(5.8ポイント増)(◎)
3 教職員の働き方改革	(1) 時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務 80 時間超の延べ人数の削減 イ 効率的な職場の環境づくり	(1) ア 部活動方針(ノークラブデー等)の遵守及びノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。 イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。	(1) ア 令和6年度4月～2月に月 80 時間超の時間外勤務の人数を昨年度より減少させる。[19 人]	(1) ア・80 時間超の時間外勤務の人数 6 名(12 月まで・13 人減)(○) 4 月 3 名／5 月 1 名 6 月 1 名／10 月 1 名